



## もう一度 「思い」と「思いやり」 気持ちをカタチに



昨年度の「浦島伝説」No.3で、テレビのCMで話題になった詩と写真を紹介しましたが、もう一度掲載します。

ある男子高校生が電車に乗って座席に座っています。大勢の人で混雑している電車の中で、彼は妊娠してお腹が大きくなっている女性が立っているのを見ます。座席を譲ろうと思ったけれど実行できません。すると別の女性が、その人に席を譲ってしまいます。

電車を降りた男子高校生は、階段を上がっています。目の前に、苦しそうに上がっている高齢者を見つけます。そのまま通り過ぎようとしたけど、

先ほどの後悔を思い出し、勇気を出して、高齢者に声をかけ、手をとって階段を上がるのを手伝います。

心でどんなによいことを考えたり、思っていたりしても、それを行動にしなければ相手に伝わらない、「思い」を「思いやり」というメッセージでした。(もしYouTubeを見る機会があったら「AC ジャパン 見える気持ちに」や「AC ジャパン 思いやり」で検索してみてください。)

さて、先日、教頭先生から「最近あいさつの声小さくなっている人が増えた」というお話がありました。昨年度の「浦島伝説」No.16・17で、みなさんに「なぜあいさつは大切なのか」考えてもらったように、あいさつには様々な目的や意味がありますが、その中でも「自分の気持ちを相手に伝える」ことは大切な要素だと思います。でも、気持ちは見えません。その気持ちを言動にして表わさなければ相手には伝わりません。令和元年度の「中高生のPHP作文甲子園」で審査員特別賞を受賞した、広島市の安田女子高等学校2年生(当時)丹下凜々(たんげりり)さんの作文をもう一度掲載します。「思いというものは何かで表わさないと人に届かないんだ」という言葉に共感しました。なぜあいさつをするのか? なぜあいさつは大切なのか? この作文を参考に、みなさんも、もう一度、あいさつについて自分なりに考えてみてください。

「挨拶っていうのは言葉じゃなくていろんな思いの代名詞なんだよ」毎朝挨拶をするたびに思い出す言葉だ。私は小さいころから挨拶が苦手だった。「おはようございます」、「こんにちは」こんなたった一言が出てこない。そんな自分も情けない。

ある日、夏休みの終わりに盆踊りに行った。一緒に来ていた友達がリンゴ飴(あめ)屋さんの前で止まった。友達がリンゴ飴を食べたいと言うので私も買うことにした。優しくなおばさんが小さいサイズのリンゴ飴を二人分渡してくれた。横にいた友達は元気よく、「ありがとうございます」と言って受け取った。

私もおじぎはしたものの、やはりお礼の言葉言うことはできずにいると友達が、「ちゃんとお礼を言わないとだめだよ」言った。私は恥ずかしい気持ちと情けない気持ちが入り混じって、涙がこぼれそうになるのをじっとこらえていた。するとそれを見ていたさっきのおばさんは、「大丈夫。おじぎも気持ちを伝える立派な代名詞だから」と言った。そしておばさんはこう続けた。「おじぎとか言葉っていうのは自分の思いの代わりの役割をしているんだ。だからありがとうという思いがあれば伝わるものなんだよ」と言ってくれた。そのあと私は勇気を振り絞っておばさんにお礼を伝えた。

おばさんは焦らなくていいよという思いを込めて話してくれたが、私はあの言葉を聞いてから、思いというものは何かで表わさないと人に届かないんだと再認識した。だから私は人々が作り出した「言葉」という媒体を最大限生かしたいと思う。そして、いろいろな人と言葉という思いでつながっていききたい。